

**【執着支配】エリート社長の義弟の『いいなり』略奪調教  
～扉の向こうの両親に怯え、気高いプライドを壊される背徳の絶対屈服～**

**サンプル（一部抜粋）**

【自室】

（ノック音）

「...義姉さん。  
僕です。」

「...僕の事を呼び出しておいて、  
布団に包まって、ぼさぼさの髪で...何をしていますか。」

「ああ。そうでしたね。  
...働いていた職場が倒産したと言っていましたね。」

「...そうですね。  
義姉さんが働く会社は、いつも何かしらの問題を抱えていますからね。」

「...で？  
僕をここに呼んだのは理由があるんですよね？」

「...僕の会社で雇ってほしい...と？  
...もう就活がしんどいから...ですか。」

---

「...僕はね、義姉さんにしかできない事を求めているんですよ。」

（そっと髪を撫で、顎へと指を滑らせる音）

「（くすっと笑う）どうします？  
僕のいいなりになるなら、雇ってあげてもいいですよ。  
僕専用の秘書として。」

---

「...ほら、体は正直じゃないですか。  
その無駄なプライド、捨てたほうがいいですよ？  
僕にされるがままのほうが、ずっとずっと幸せになれるんですから。」

（ズボンと下着をずらす音）

「...あーあ。こんなに濡らして。」

（くちゅくちゅと指でクリトリスをいじる音）

「...気持ちいいんですね。ここ。」